

# 令和2年度 事業報告

公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月 31日

## <概況>

本協会は1980年7月26日に創立され、昨年40周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と長年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、平成26年3月20日、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、平成26年4月1日に移行・設立した。

事業運営面では、公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、北関東、東海、近畿、中国の主要6地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、未来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

しかし年度当初より、新型コロナウイルスの国内での感染拡大を受けて、全国各地の講座・セミナー、研修、会議などを含め、活動全般が休止を余儀なくされた。その後、年度後半よりオンライン開催を主として活動を再開した。対面による開催、及びボイストレーニング等感染リスクを完全に排除できない活動については、大幅に制約を受けているものの、全国的にオンラインによる活動が普及し、会員組織の維持、普及活動の継続につながっている。

一方、本協会創立40周年を迎えるにあたり、かねてより「全国50スクール体制」実現を目標として掲げ、また併せて、記念事業として①記念大会の開催②スコーレ会館の整備③40周年記念誌の発行を検討、準備してきたが、前述の事態を受けて「全国50スクール体制」の達成期限を令和3年度末へ延期した。また記念大会の開催を最終的に断念し、その代替として令和3年1月に40周年の祝賀行事を開催した。

## <事業活動>

### I. 家庭教育の振興

- (1) 各地の教育委員会や幼稚園、小学校PTA等からの要請を受け、講演会の講師を毎年派遣していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、今年度は派遣を見送った。
- (2) 各地の教育委員会より78回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象にオンラインを中心に「家庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「子育てセミナー」は、規模を最小限に抑えて感染対策を徹底した上で開催し、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。

これらの講座開催は602回に及び、延べ13,208人が受講した。

- (3) 協会の 57 人のカウンセラーによるカウンセリングは、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っているが、今年度は感染対策を取った上で、各地区で実施した。
- (4) 成人男性対象の組織『スコレ・マスターズ』は、これまで地区毎に分散して学習会を開催してきたが、コロナ禍をきっかけに、オンラインによる全国規模の学習会をスタートさせた。その結果、遠隔地からの参加が増えてきている。
- (5) 熟年女性対象の組織『スコレ・グレイセス』は、コロナ禍により活動が制約された。ただ、腹式呼吸と発声を目的とした「グレイセス・ヴォーチェ」や「生き生きトレーニング」の YouTube 配信等が、好評を博している。

## II. 研修の実施

- (1) 「早朝研修」は全国の会場で毎朝開催していたが、最少人数による会場開催を除いて、オンライン開催が主となった。ただ、オンラインを取り入れたことにより、延べ人数は前年度比 146%の 281,454 人に上った。
- (2) 初級・中級・上級者向けのボイストレーニングは腹式による全力発声を伴うため、対面での開催は断念し、メニューや参加方式などを検討・準備した上で 9 月よりオンラインでの開催をスタートし、延べ 5,320 人が受講した。同トレーニング修了者が受講する「ことだまコース」も同様にオンラインによる開催とした。
- (3) お母さんがゲーム感覚で子供と共に共感体験できる「ふれあいトレーニング」、寝たきりや転倒防止を図る「生き生きトレーニング」は、身体の接触を伴うメニューが含まれているため、対面では行わずにオンラインのみでの開催とした。
- (4) 「家庭教育講座」の講師として、今年度新たに 1 人が「本部講師検定試験」に合格し、現在 32 人の講師が全国の家庭教育講座を担当している。
- (5) 「心身開発トレーナー」「ふれあいトレーナー」「生き生きトレーナー」を認定するトレーナー審査会は、今年度は開催を見送った。現在、全国で有資格者 171 人が各地区で活躍している。
- (6) 「リーダー研修」「実践者研修」等をオンライン中心に実施し、合せて 2,498 人が受講した。
- (7) オンラインによる「北部実践者研修」を年 3 回開催して、宮城・栃木・茨城・群馬・埼玉県から延べ 168 人が受講し、若手リーダーの育成を図った。
- (8) 会員向けの『自己発見の旅』学習は 54 人が受講修了し、延べ 2,651 人となった。

## III. 研究プロジェクトの実施

- (1) 『子育て応援キット』から学び始めて、『スタート』学習、『ステップ・UP』学習、さらには『自己発見の旅』学習を受講して、レベルアップを図る学習プログラムのシステム化に取り組み、全国展開が平成 27 年 4 月からスタートしている。

『スタート』学習では、若いお母さんが学習しやすいように改訂した教材を平成 28 年 9 月から使用して、好評を博している。また、リーダー向けに発行した「参考メッセージ集」が活用されている。

- (2) 一部賛助会員からの要請により、社員教育の一環として講師・トレーナーを派遣し、ボイストレーニング・ふれあいトレーニングなどを中心に実施している。今年度は、感染対策を徹底した上で 5 回開催した。

#### IV. ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

- (1) ベルマーク収集活動は、今年度の集票点数は 255,270 点であった。創立以来のベルマーク収集の全国累計は 2,300 万点を超えている。
- (2) 第 42 回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」では、毎年実施している街頭での募金活動は、コロナ禍により中止となったが、各地区に募金を呼びかけ、818,210 円を日本ユニセフ協会に収めた。
- (3) 使用済み切手は、社会福祉法人「聖明園」へ寄贈するほかに、日本キリスト教海外医療協力会の国際保健医療協力事業への支援に活用されている。
- (4) 未使用ハガキの収集枚数は、4,881 枚となり、学校法人「アジア学院」への援助などに活用されている。
- (5) 日本学会協議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、同学会が認定する「家庭教育師」に新たに 3 人が認定され、現在 21 人が認定者となっている。

#### V. 普及事業

- (1) 月刊『すこ〜れ』（通巻 482 号）は、生涯学習誌として、内外の好評を得ている。
- (2) 平成 30 年 7 月創刊の季刊冊子「スコレフレンズ」は、一般向け広報誌として、講座案内用のチラシとセットで配布されているが、各地区の普及活動がコロナ禍により大幅に制約を受けたこともあり、年 4 回の内 1 回の刊行を見送った。
- (3) 協会公式ホームページは、今年 1 月にリニューアルした。トップページは、家庭を意識した温かみのあるデザインとしたほか、新たに、各地の家庭教育講座の受講申し込みが HP を通じて行えるようにした。さらに、会員専用ページもより見やすくし、「コミュニティ広場」のコーナーにおいて、各地区の最新情報にアクセスできるようになっている。
- (4) 相模原市の地元紙「相模経済新聞」に、子育て中の父親向け企画として、「おとうさん、出番ですよ！」を毎月、連載した。
- (5) 女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」（5 巻）は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。
- (6) 「ボランティア通信」（通巻 52 号）を年 2 回 12,000 部発行し、全国の収集ボランティア協力者に広く読まれている。

<会員動向>

会員等区分の名称	令和2年3月31日	令和3年3月31日	前年比
一般会員	19,313人	18,801人	97%
特別会員	8,060人	8,456人	105%
合計	27,373人	27,257人	99%
賛助会員	7社	7社	100%

以上